

相見 金子 就任 金就

地方建設業の苦境に理解

発注形態や財源配分見直しも



9月29日就任した金子一義国土交通相は30日、建設専門紙などに就任会見し「写真、有力企業の倒産が相次ぐ地方の建設業の苦境に理解を示し、事業量の確保だけでなく、発注形態や自治体へ

の財源配分の見直しにも踏み込むべきだとの考えを明らかにした。政府が臨時国会での成立を目指す08年度補正予算で中小建設業者の資金繰り対策に積極的に取り組む方針も示した。

地方建設業の苦境については、宮城県建設業協会の支部長会社のデータ为例に地域の有力企業が大幅な赤字に陥っている実態や、建設会社が

重機を売却したために災害に対応できない県が発しているといった状況を指摘。予定価格の事前公表によって応札価格が最低制限価格に張り付き、抽選で落札者を決めている県があることも挙げ、抽選で会社経営を行つのは本来の話ではな

い」と現状に強い危機感を示した。「安ければ良い」という受注合戦にも疑問を呈し、「発注形態も考えていかなければならない」と制度見直しの必要性を指摘した。地方建設業者の倒産には自治体発注の影響も大きいとして、自

治体の財源確保の問題にもある」と述べた。言及。「国と地方の財源道路特定財源の一般財をきちんと受け止めてい配分割合を見直す必要源化については、「道路きたい」と語った。

整備を求める自治体の声